

第6回 東海北陸 在宅医療 推進フォーラム

在宅ケアをすすめよう

～地域包括ケアの窓として～

どなたでも参加できます

参加無料

**事前申込
不要**

日時

2015年12月13日(日)
13:00～16:30(12:30受付開始)

会場

四日市市文化会館 第2ホール (590席)
三重県四日市市安島2丁目5-3

プログラム (敬称略)

基調講演Ⅰ「病から詩が生まれる…認知症の場合」

大井 玄(在宅内科医・東大名誉教授・公衆衛生学者)

基調講演Ⅱ「看取り経験を子供たちに」～在宅医療の四日市モデル～

石賀 丈士(いしが在宅ケアクリニック院長)

座長 遠藤 太一郎(いせ在宅医療クリニック院長)

シンポジウム「四日市の地域ケアの話をしよう」

主催 第6回東海北陸在宅医療推進フォーラム三重県実行委員会・四日市医師会

共催 四日市市・鈴鹿市医師会・社会福祉法人青山里会・全国在宅療養支援診療所連絡会
公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団

後援 三重県医師会・三重県保険医協会・公益社団法人三重県看護協会・三重県社会福祉協議会
三重県医療ソーシャルワーカー協会・三重県歯科医師会・三重県薬剤師会
三重県訪問看護ステーション連絡協議会四日市地区・三重県訪問リハビリテーション連絡協議会・三重県介護支援専門員協会
四日市(歯科医師会・薬剤師会・訪問看護ステーション連絡協議会・訪問リハビリテーション連絡協議会・市ケアマネ部会)

このフォーラムは公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団の助成を受けています

プログラム

13:00～13:05 挨拶

13:05～14:45 基調講演Ⅰ「病から詩が生まれる…認知症の場合」

大井 玄(在宅内科医・東大名誉教授・公衆衛生学者)

基調講演Ⅱ「看取り経験を子供たちに」

～在宅医療の四日市モデル～

石賀 丈士(いしが在宅ケアクリニック院長)

座長 遠藤 太久郎(いせ在宅医療クリニック院長)

14:45～15:05 ミニコンサート 結里花

15:05～15:15 休憩

15:15～16:30 シンポジウム「四日市の地域ケアの話をしよう」

コーディネーター

山中 賢治 (四日市医師会理事・笹川内科胃腸科クリニック院長)

シンポジスト(順不同)

加藤 尚久 (四日市医師会 副会長、あこず内科循環器科クリニック院長)

加藤 卓也 (四日市歯科医師会 副会長、かとう歯科院長)

藤戸 健司 (四日市薬剤師会 会長、藤戸薬局)

松下 容子 (四日市羽津医療センター附属訪問看護ステーション 管理者 認定看護師)

高木 章好 (四日市訪問リハビリテーション連絡協議会、かすみがうらクリニック 理学療法士)

西元 幸雄 (全国地域包括・在宅介護支援センター協議会 副会長、青山里会 常務理事)

中島 英子 (三重県介護支援専門員協会 三泗支部長、渚園四日市 管理者)

鈴木 廣子 (四日市市北地域包括支援センター センター長)

吉川 晴子 (市立四日市病院 地域連携・医療相談センター「サルビア」)

栗田 さち子 (四日市市健康福祉部 理事)

シンポジウムのテーマに関して

四日市では、ここ数年で、自宅での死亡の割合が確実に増えてきています(平成20年13.7%→平成24年18.5%)。特に悪性新生物の患者の死亡場所が病院から自宅へシフトしてきているのが顕著です(病院:平成20年90.2%→平成24年77.2%、自宅:平成20年7.3%→平成24年18.8%)。

四日市は、「他の地域より在宅医療や病診連携が進んでいる」「多職種連携が構築され、機能している」等と言われてはいますが、これらは一朝一夕に完成したものではありません。

四日市では、地域ケアの構築に向けて、以前より医療や介護福祉の関係者や関係団体が独自にその仕組みを醸成してきた背景がありましたが、平成20年以降に“顔の見える関係”が出来たことにより、それまでの点と点だった仕組みが有機的に繋がり、一気に面となって萌芽したのが現在の四日市の地域ケアの姿です。シンポジウムでは、四日市の地域ケアに関わるオールキャストが集結し、この萌芽に至るプロセスや現在の様子をご覧にいたします。



大井 玄



石賀 丈士



結里花

大井 玄(おおい げん)

1935年8月5日生まれ。公衆衛生学者、東京大学名誉教授。京都府出身。1963年東京大学医学部卒業、1977年ハーバード大学公衆衛生大学院修士課程修了。東京大学医学部助教授、1976年「鳩、鉛汚染の指標」で東大医学博士。1983年帝京大学医学部公衆衛生助教授、教授、90年東大国際保健学専攻教授、96年定年退官、名誉教授、国立環境研究所所長。専門は社会医学、一般内科、在宅医療、心療内科、環境医学。臨床医として、終末期医療全般に関わる。一般向けの著書に『「痴呆老人」は何を見ているか』(新潮新書 2008)、『環境世界と自己の系譜』(みすず書房 2009)、『人間の往生 看取りの医師が考える』(新潮新書 2011)、『病から詩がうまれる 看取り医がみた幸せと悲哀』(朝日選書 2014)、『呆けたカントに「理性」はあるか』(新潮新書 2015)。

石賀 丈士(いしが たけし)

1975年、大阪府生まれ。2001年、三重大学医学部卒業後、同大学付属病院第二内科勤務。山田赤十字病院、診療所所長を経て、2009年、三重県四日市市に緩和ケアを中心とした在宅医療専門の「いしが在宅ケアクリニック」を開設。現在は常勤医師5名体制で常時350名以上の患者へ訪問診療を実施。年間約300名の在宅看取りを行っている。著書に『最期まで、命かがやいて』(幻冬舎 2015)。

結里花(ゆりか)

本名 矢原由佳子、三重県出身。
2000年より、三重県内の病院・医院にて医師として勤務。
2010年より、いしが在宅ケアクリニックに非常勤の在宅医として勤務。
2004年より、アマチュア歌手としてライブハウスや施設訪問での活動開始。
2014年6月、作詞家の吉田旺氏に頂いた名前『結里花』として、「花火」／「孔雀の舞」(熊野古道世界遺産登録10周年記念曲)を全国発売、プロフェッショナル歌手としてメジャーデビュー。(花火の作詞：吉田旺氏、作曲：KAY氏、(株)フリーボード販売、キングレコード発売)
熊野花火音楽祭はじめ、三重県各地のイベントに出演。
なお、キャッチフレーズは「三重に生まれ育ち、三重に住み、三重を愛する結里花」である。

※当リーフレットに記載のお名前はすべて敬称略とさせていただきます



